



SPECIFICATIONS FOR COMPETITION EQUIPMENT

FIS競技用品規格(SCE)



スキージャンプ・ノルディックコンバインド

全日本競技用品規格(SCE)

EDITION 27 OCTOBER 2025



FIS 競技用品規格 クロスカントリー、スキージャンプ、ノルディックコンバインド 20254/20265-版

A. 定義

一般原則

FIS 理事会は、名前、呼称、商標、ロゴ、またはその他の識別記号の使用が、FIS ルールおよびガイドラインに準拠しているかどうかを決定する、唯一の権限となる。
また、FIS はこれらのルールとガイドラインの精神および目的が確実に尊重されるよう、さらなる解釈および/もしくは補足する権利を留保する。

1. 競技用品

ここでいう「競技用品」とは、技術的機能を果たす衣類や用具を含む、競技スキーでアスリートが使用するすべての用具を意味する。全ての競技用品が一つの機能単位を形成し、これに関連して次の点に注意をすること:

- a) 安全の原則
- b) 公平性の原則

1.1 有効なメーカー

ここでいう「有効なメーカー」とは、みずから競技用品を製造する企業、および/または慣習的な下請けプロセスを通じて、みずからの責任の下で競技用品の製造を効果的に制御、および管理し、競技用品を市場のエンドユーザーに効率的に提供するメーカーを指す。FIS から要求された場合、メーカーは、商用マーキングがメーカーの識別(本定義は次項を参照)として受け入れられるための条件として、小売レベルでの商業活動、すなわち製造プロセス、小売活動、さらには、ブランドと関連する用具を結び付ける、マーティング支出の管理を含め、関連する競技用品の市場における
製造活動などの文書証拠を提供するものとする。

1.2 メーカーの識別

「メーカーの識別」とは、特定の競技用品が製造され、市場に商業的に提供される有効なメーカーの商号、ブランド、ロゴ、またはその他の名称を意味する。

メーカーの識別は、スポーツ用品ブランドである必要があり、メーカーの識別は主に競技用品に使用され、基本的に非スポーツ用品には使用されない、さらに/または競技用品と関連性の無い、別の事業分野で使用されている類似品、または同一の商品と混同されなければならない。

1.3 競技用具

競技用具とは、競技中に不可欠な機能を果たすが、実際の競技とは分離できる用具を指す。

例: スキー板、ビンディング、ブーツ、ポール、ウェア、ヘルメット、スキーゴーグル

1.4 追加装備(付属品)

競技の追加装備(付属品)とは、競技用品の技術的機能に影響を及ぼし、認められた固定手段によって用具に直接取り付けられるコンポーネント(部品)または用具を指す。こ

のような付属品は競技中に重要な機能を果たさない。

例: パラブラック、プラスチック製チップ・カバー、追加ウェイト、バックプロテクター

1.5 付属機器

付属機器とは、必須の機能を果たさず、追加装備(付属品)の項目に該当しない、競技用機器のコンポーネント(部品)を指す。

例: 測定器

2. 競技用品の新規開発の承認手順

ICR 第 222.4 条は次のように規定される:

次シーズンの新規開発は、遅くとも 5 月 1 日までに提出されなければならない。初年度において、新規開発は次のシーズンに向けて暫定的にのみ承認され、次の競技シーズンの前に最終的に承認されなければならない。

2.1 対象者

- a) イノベーションのメーカーまたは販売業者
- b) ナショナルスキー連盟
- c) 競技用品委員会のメンバー

各 FIS 委員会の FIS 技術代表者は、競技用品委員会に新規開発の申請書を提出する資格がある。メーカー、販売業者、およびナショナルスキー連盟は、その品目が新規開発にあたるのか、既存製品のさらなる開発であるのかを決定するために、それぞれの FIS 技術委員会に、事前に申請書を提出しなければならない。

2.2 申請項目

競技スキーの用具として使用される重要な新規開発は、承認申請ができる。医学的、法律的、および安全性の観点を考慮して、新規開発が FIS の「競技用品規格」に適合するかどうかを決定するのは、競技用品委員会の単独の責任である。ただし、委員会は、これらのガイドラインの決定に従い、競技スポーツで使用される用具の品目に関する申請の削除をいつでも手配することができる。

2.3 試作品・サンプル

申請書にはイノベーションの詳細な説明を含めること。試作品またはサンプルは申請書と一緒に提出しなければならない。科学専門家による関連レポートや、トレーナーや参加者による体験レポートも提出すること。

2.4 競技用品委員会の決定

競技用品委員会は、次回の会議でこれらの申請を扱うこととする。提示されたアイテムが有効な競技用品規格に完全に準拠していると委員会が判断した場合、この決定は関連する 決定次項に記録される。

委員会が、競技スポーツにおける FIS の競技用品規格の関連原則、および決定に従い、そのイノベーションが受け入れられる可能性がある、という結論に達した場合、そのイノ

ーションは、次のシーズン期間にテストのために暫定的に承認されることがある。しかしながら、この承認は条件付きで承認されることもある。公平性を理由に冬季オリンピックや世界選手権などの特定の競技会については、例外が認められる場合がある。

ただし、競技用品委員会は、仮承認前に次の措置を講じることもできる。これらは個別に、または一緒に対処が可能。

- a) FIS 技術委員会から、専門家による報告書や技術データなど、さらなる情報を要求する。
- b) FIS 技術委員会からの反応を求める。これらの意見は書面で提出し、次の要素を考慮する必要がある：
 1. 新規開発の有用性と必要性に関する説明
 2. 新規開発の安全性に関する意見
 3. 新規開発を受け入れる際に、公平性の原則が保証されるという保証
- c) 競技用品委員会自体を通じて、専門家による報告とさらなる情報を求める。新規開発品が FIS 競技用品規格の原則に適合しない場合、申請自体を通じて、または手続き中に、当該新規開発品の競技スポーツにおける使用は禁止される。これは、アイテムの試用期間中に、新規開発が FIS 競技用品規格の原則に、適合していないと委員会が判断する状況が、生じた場合も同様である。この場合、仮承認は即時に取り消されるものとする。

2.5 FIS 理事会への提案

競技用品規格の変更は、競技用品委員会を通じてのみ、FIS 理事会に提案することができます。これは、委員会自体からの発意によって、あるいはナショナルスキー連盟、または技術委員会のいずれかによる、競技用品委員会への申請を通して行われる。

B. クロスカントリースキー競技用品

別紙

C. スキージャンプ競技用品

1. ジャンプスキー(板)

1.1 定義

ジャンプスキーは、ジャンプ台での使用を目的として特別に製造されたものである。その構造は、スキージャンプの要件に適合する。

1.2 制限

1.2.1 形体

1.2.1.1 スキー板の長さ

体重と身長の関係による($BMI = \text{体重(kg)} / \text{身長(m)}^2$)。(添付資料参照)
ただし、スキーの長さの上限は、 BMI の最小値が女子で 21、男子で 21 あることに基づき、選手の身長の 145%となる。

BMI が上記の最低値未満の選手には、 BMI 0.125 毎 のグレーディング表が適用される。

例外：ユース大会の場合、スキーの長さの上限は、身長のみの 140%に制限される(BMI 計算式は適用されない)。

1.2.1.1.1 体重コントロール

体重コントロールは、ヘルメット、ゴーグル、グローブ、スキージャンプブーツ、ウェッジ、ジャンプスーツ、ビブスを着用せず、個人の下着のみの着用で行う。

1.2.1.2 横幅(添付資料参照)

A から B を通って C までの湾曲が、スキーのサイドカットの形状を示す。この湾曲は、両サイドとも同一で、スキーのセンターラインに対し左右対称でなければならない。最大として A から B、および B から C をつなぐラインは、直線に見えるようにする。

バランス地点の滑走面の幅は、95mm 以上、105mm 以下とする。

エッジは、スキーの全長に沿って、滑走面及び上面に対し 90 度の角度を作らなければならない。

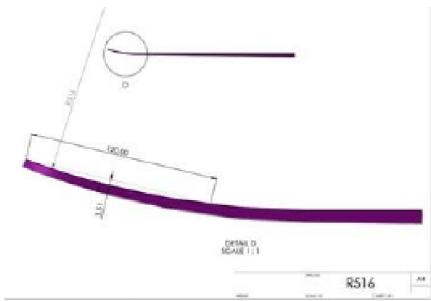
上端から下端までの丸みは 2mm 以下でなければならない。

スキー先端とテールの幅の上記の測定値の差は、5mm 以下でなければならない。

1.2.1.3 ショベルの外形(輪郭)、長さ、高さ

スキーの先端は、左右対称で中央部に中心があり、かつスキーの長さの 57%部分でスキーを面(サーフィス)に押し付けた状態で(スキー全体面を平らな面に置かなければならぬ)、面(サーフィス)までの最小距離 40mm が守られる限り、個々に変更することができる。

スキーの先端はカーブしてなければならない。カーブの厚さは、スキーの先端から 120mm 以内最低 3.5mm でなければならない。



1.2.1.4 テールの外形

スケッチに基づく。(別紙(原文 26 ページ)を参照)

高さは 10mm 以下。

1.2.1.5 滑走面

滑走面はフラットでなければならないが、縦方向に細かいベースストラクチャーを入れることができる。溝を除いて、スキーベース全体に何らかの形をつけることはできない。溝は複数つけることができるが、全ての溝の測定表面積の合計は、スキーの最小幅の 50%を超えてはならない。また 1 本の溝の幅は 10mm 以下でなければならない。ベース素材は、ポリエチレンでなければならない。

1.2.1.6 上面(トップ サーフィス)

スキーの上面は、スキー幅全体にわたり滑らかで、平らで真っすぐでなければならない。スキーの表面は、目に見える突起、こぶ、へこみがなく、平らで規則正しいものでなければならない。

1.2.2 形状とフレックス(柔軟性)

先端に空気力学的カバーをつけること、またサイドにスタビライザー形式でフィンをつけることは認められない。飛行中に好ましい空気力学的フレックスを生み出すデザインは認められない。それ以外の場合、フレックスの強度に関する制限はない。スキーの上面は、滑らかで平らでなければならない。

1.2.3 質量

スキー1 本あたりの重量は、何も取り付けていない状態で、その長さに適合する最小重量を満たさなければならない(長さを cm 表示した数字 = 重量を kg 表示した数字: 例として 250cm = 2.50kg、262cm = 2.62kg)。重心のバランスをとるために使用する鉛のウェイトは考慮されない(1.2.6.2 条参照)。スキーの重量は、ビンディング(ビンディングシステム全体 - スキーウエッジ及びネジを含むフロントとバックパーツ)を含んで計測できる。この場合、スキーの重量は、重さ最低 200250g のビンディングを加えたスキーの重量(スキーの長さに一致する最低限の重量)を示さなければならない。

1.2.4 構造

1.2.4.1 スキー構成要素

トーションボックス：素材及び寸法に関する制限なし。
エッジ：1.2.1.2 条参照。

1.2.5 耐久性

ジャンプスキーのビンディング取り付け部分のねじ保持強度は 1600N でなければならない。

1.2.6 追加用品

1.2.6.1 次に当てはまる追加用品は認められない：

- a) 外部エネルギーを利用するもの(例:ヒーター、化学エネルギー蓄積装置、電池、機械的補助等)。
- b) 他の選手に不利となるような競技の外部条件の変化を引き起こすもの、または引き起こす意図があるもの(例:ピステや雪に変化を加える等)。
- c) 意図された使用目的で使用した際、使用者やその他の人の負傷のリスクを高めるもの。

1.2.6.2 追加ウェイト

重心のバランスをとるための追加ウェイトを認める。これらをスキーの表面にスコッチテープ(セロテープ)または類似品で貼り付ける場合、テープの総面積は 45cm²を超えてはならない。

2. ジャンプスキーのビンディング

スキージャンプのセーフティビンディングは、負荷制限装置として機能する。すなわち、これらの装置は、滑走中に発生する特定の要求を許容できる限界まで伝達し、この限界を超えると、しっかりと固定していた状態からスキーをリリースする。

テイクオフの補助として、あらゆる種類の外部エネルギーを生成する追加装置を禁止する。

ビンディングシステム一式は、スキージャンプブーツがスキー板に軸に沿って左右対称に固定され、滑走方向に平行に取り付けなければならない。ビンディングはスキーに平らに取り付けなければならない。ビンディングの前部(フロントパーツ)の全ての取り付けネジは、ビンディングのロックパーツの前になければならない。ジャンプブーツの前部がビンディングの前部に固定された後は、ブーツはスキーの表面に平行になるように固定されなければならない。ブーツソールのヒールウェッジの輪郭は、通常生産されている状態で、ジャンプスキーのサイドウォールをはみ出してはならない。ビンディングシステム全体、すなわち、ビンディングのスキー・ウエッジ及びネジを含むフロントとバックパーツの重量は最低 200250 グラム。

ロッカーシステム(Locker system)使用のビンディングでない限り、ビンディング/スキー板とブーツとをつなぐセーフティ(安全)ストラップの使用が義務である。

2.1 ビンディングウェッジ

インランポジション改善のためにビンディングウェッジを認める。ブーツソール及びビンディングウェッジ全体の高さは、50mm 以下でなければならない。

2.2 ビンディングの取り付け

ビンディングは、スキーのフロント部分がスキー全長の 57%以下となるように取り付けなければならない。スキーの先端(ショベル湾曲含む)からシューズキャップ(レザ一部分)までを測定する。(57%は、cm 単位に切り上げまたは切り捨てられる。)

2.3 スキーストッパー

スキーストッパーは、ブーツがビンディングから外れた際スキー板の滑り落ちを防ぎスピードを弱めるメカニズムである。

2.4 トランスポンダー及びモーションセンサー

ライブで届きデータが記録されるトランスポンダー及びモーションセンサーが、公式データ及びスコアリングプロバイダーにより提供され、FIS に承認される。これらは、いくつかの大会の公式練習、競技会において選手によりビンディングの前部分に装着されなければならない。トランスポンダー及びモニターセンサーは、選手のスピードやポジショニングなど外部データを届ける。このサービスは、公式タイミング及びデータプロバイダーにより提供され、発生したデータは無料で各 NSA 及び FIS に提供されなければならない。

3. スキージャンプブーツ

3.1.1 サイズと形状

ブーツサイズと形状は、足の長さと形状と同じでなければならない。ブーツサイズ測定(内側から外側まで)の最大許容差はプラス 2cm とする。

3.1.2 形状の変更(再形成)

空気力学的効果を高める目的で、ブーツの形状を変えることは認められない。

3.1.3 ソールの厚さ

ブーツソールは、ヒール(かかと)の最下部で内側から外側を測定し 40 mm 以下でなければならない。

ブーツソール及びビンディングウェッジの全体の高さは、50mm を超えてはならない。

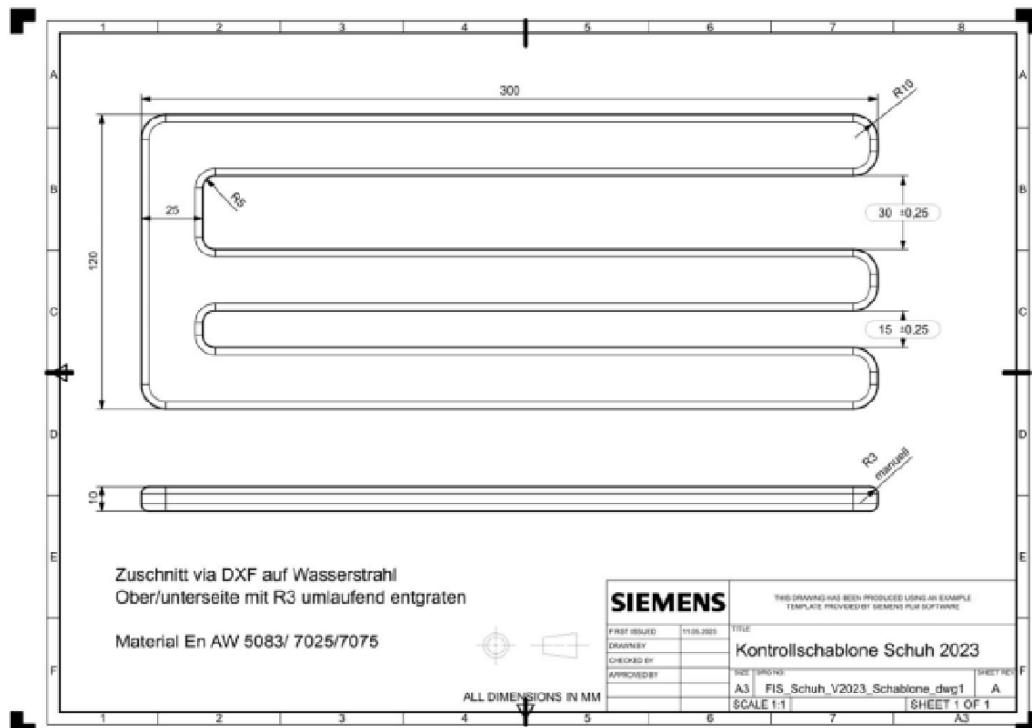
3.1.4 リアパーツの角度

ブーツの後ろ側(リア)パーツの傾斜角度は、内側の測定で 65 度を下回ってはならない。

3.1.5 バックパーツ

ブーツのバックパーツの厚さは、30mm を超えてはならない。サイドの厚さは同じでなければならず、15mm を超えてはならない。

3.1.5.1 バックパーティテンプレート



3.2 シールド/spoイラー

ブーツの後ろ側パーティのカーボンシールド(spoイラー)は認められる、しかし、面積全体をブーツ面に付着させるが、ブーツ面を超えてはならず、左右対称に取り付けなければならない。spoイラーが全体を覆っていない場合、左右対称に取り付けなければならない。

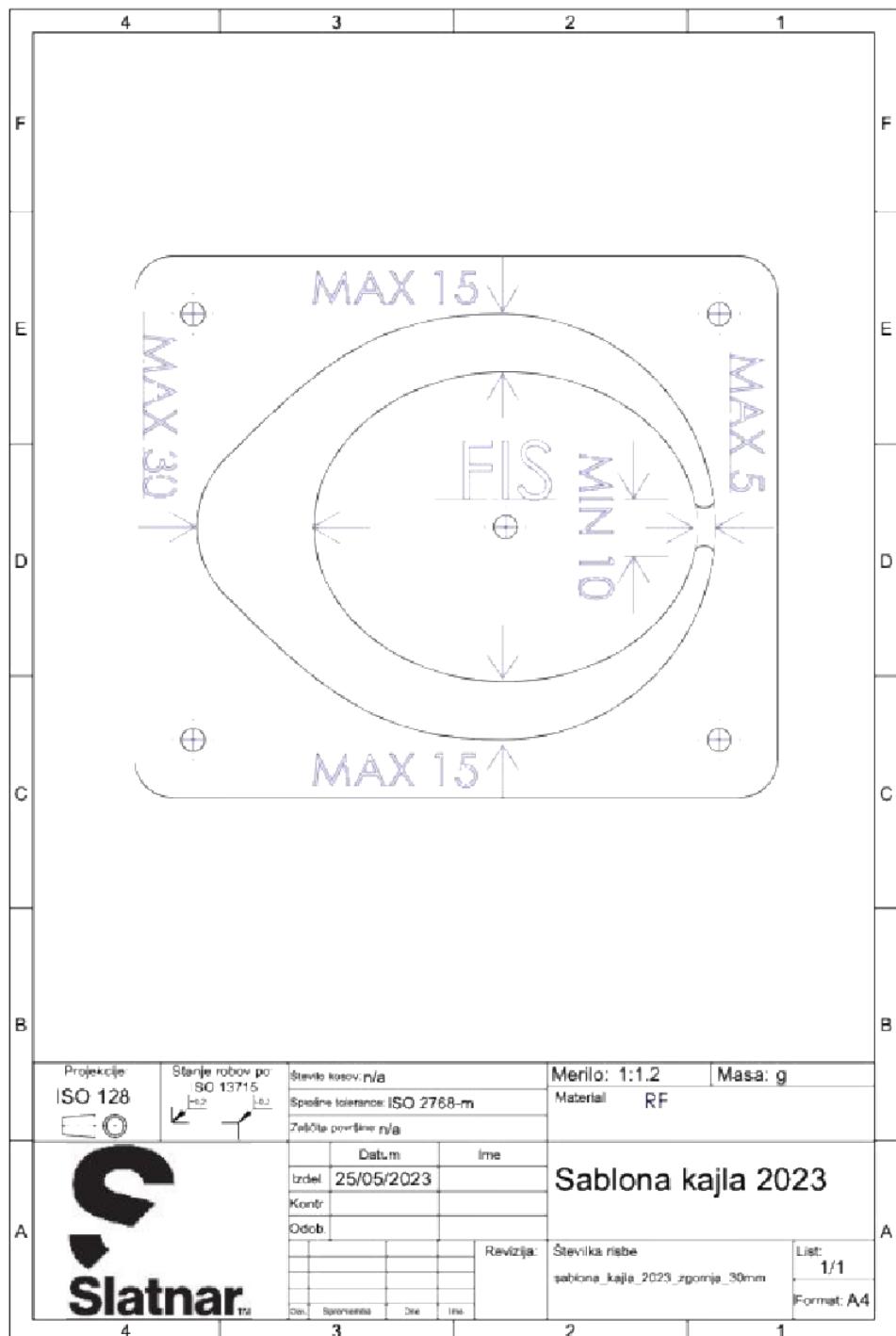
ブーツやシールドにスースを固定出来ないようにこれらをブーツ面に取り付けなければならない。

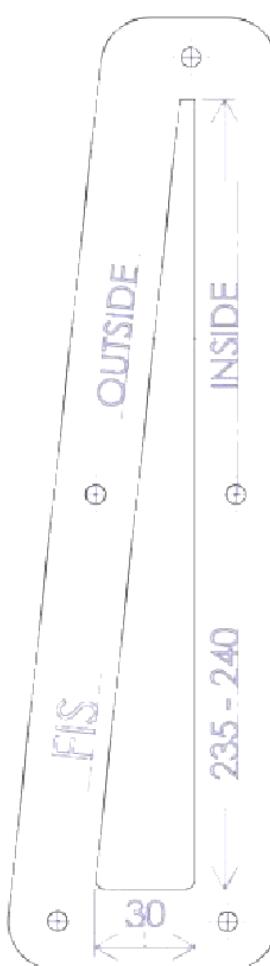
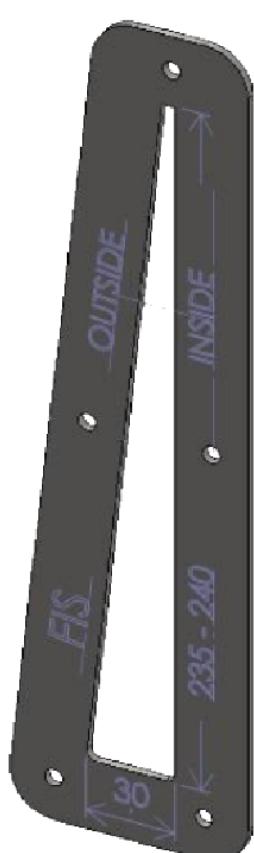
3.3 ウエッジ

ブーツ内側にウエッジを飛行中着用することが出来る。ウエッジは、左右対称でなければならない。以下の最大サイズが認められる、バックパーティ: 3 cm、サイド: 各サイド 1.5cm、フロントパーティ: 0.5cm。ウエッジの開口部は中央のフロントパーティにのみ配置できる。どちらかのサイドが開いているものは不可。ウエッジの上部エッジは、ジャンプブーツの上部エッジと同じ位置になければならない。ウエッジは、左右対称にブーツ内側に位置しなければならない(ブーツ内側でウエッジを回転させることは認められない)、

および、ブーツの内側にぴったりフィットしなければならない。

3.3.1 ウエッジ テンプレート



	4	3	2	1																						
F				F																						
E				E																						
D				D																						
C				C																						
B				B																						
A				A																						
 Slatnar <small>Tech</small>		Projekcije: ISO 128 		Stanje robov po: ISO 13715 Specif. toleranca: ISO 2768-m Zalžita površina n/a																						
		Število kesov n/a Datum: _____ Ime: _____ Izdel: 06/06/2025 Staš Konfr. Odlob.		Merilo: 1:1.5 Masa: 357.14 g Material: 1.4301 (X5CrNi18-10)																						
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33.33%;">Dat. m.</td> <td style="width: 33.33%;">Ime</td> <td style="width: 33.33%;">Naziv</td> </tr> <tr> <td>Izdel:</td> <td>Staš</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Konfr.</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Odlob.</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		Dat. m.	Ime	Naziv	Izdel:	Staš		Konfr.			Odlob.												Revizija: A Številka risbe: 1/1 2023_Sablona_naris z luknjami Format: A4	
Dat. m.	Ime	Naziv																								
Izdel:	Staš																									
Konfr.																										
Odlob.																										
4	3	2	1																							

4. スキージャンプスーツ

4.1 定義と一般規則

スキージャンプスーツは、スキージャンプ用に設計された特殊な競技用衣服である。

- 添付のスーツのイラストは、これらの文書化されたルールの正式なベースである。
- スーツは、必要なすべてのポイントで測定が行えるように仕立てられている必要がある。
- スーツはどのポイントでも固定できない。
- 測定およびチェックのため、スーツにマークを付けることは許可される。
- 素材またはスーツに対する追加の化学的(気体、液体、固体)または機械的処理は許可されない。
- 外側のタックやダーツ、折り目、パッドは許可されない。
- スーツの内側やスタートビブの下に髪の毛を入れることは許可されない。髪の毛はスーツの外側に垂らすか、ヘルメットの中に入れなければならない。
- ユース競技(ユースカップ、FIS シューラーGPなど)の例外:スーツのパート数とカットに制限はない。

4.2 スーツの構造

4.2.1 スーツのパート 男子用

男子用ジャンプスーツは 9 つのパートで構成される。

- フロントパート 2 つ(1)
- フロントズボン 2 つ(2)
- バックパート 1 つ(3)
- バックズボン 2 つ(4)
- 袖 2 つ(5)

2 つのフロントパート(1)とバックパート(3)を脇の縫い目(サイドシーム)で縫い合わせて上半身を形成する。

袖(5)は袖の縫い目(スリーブシーム)に沿って縫い合わされ、袖山は上半身の袖ぐり(アームホール)に沿って縫い合わされる。

2 つのフロントズボン(2)はクロッチシームで中央で縫い合わされる。

2 つのバックズボン(4)はシートシームで中央で縫い合わされる。

フロントズボン(2)とバックズボン(4)は、各脚のサイドシームと内側の縫い目(インナーレッグシーム)で縫い合わされる。

上半身(1、3、5)とズボン(2、4)はウエストシームで縫い合わされる。

メインのジッパーはフロントピース(1)とフロントズボン(2)の間に縫い付けなければならない。

スーツのフロントパート(ジッパー付き)は、次の例外を除き、胸から脚までのスーツのバックパートと同じでなければならない:

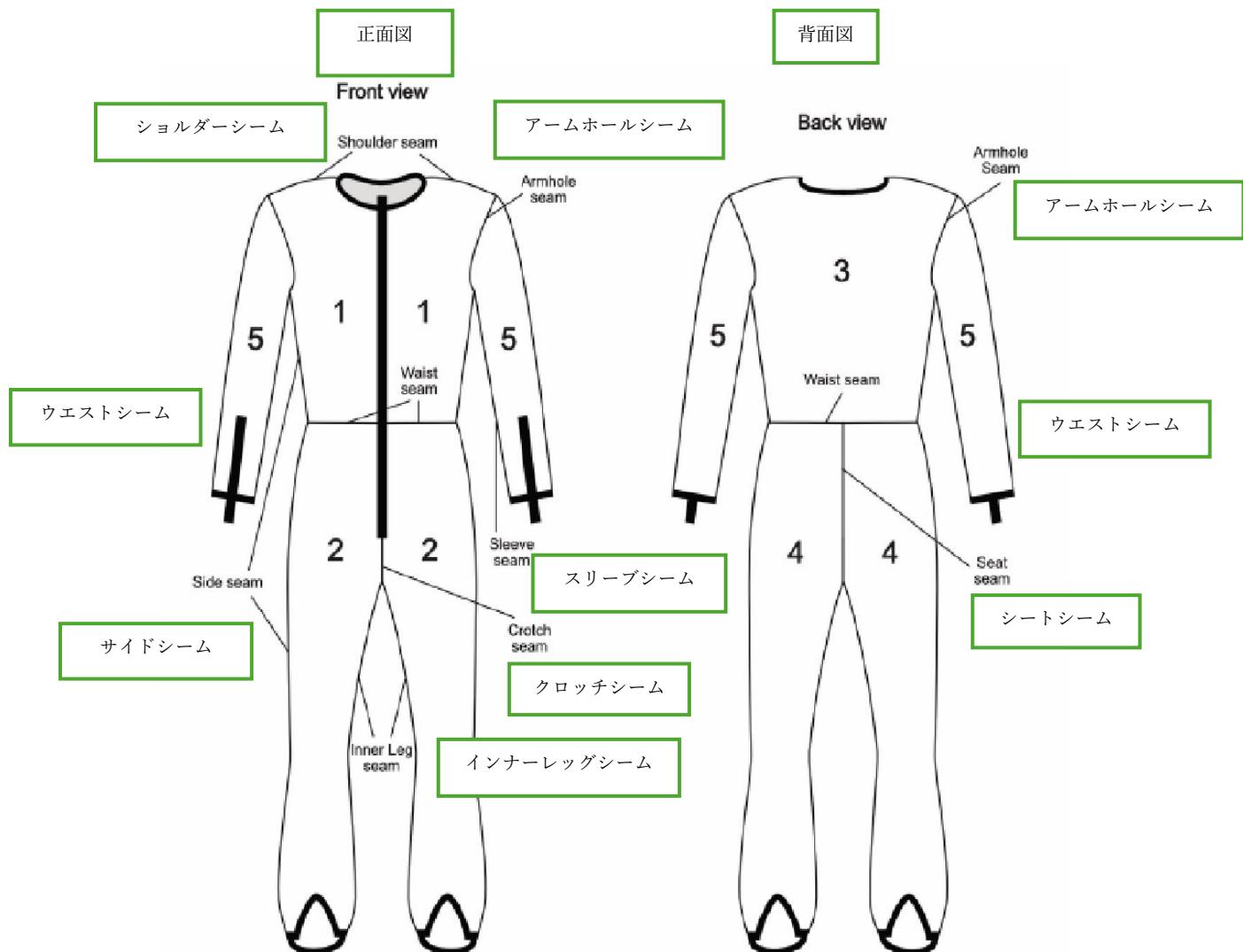
**スーツのバックパートは股下の高さでフロントパートより最大 4cm 大きくてもよい。
股下からウエストシーム、膝にかけて許容範囲は狭くなり、最終的には 0 になる。**

ジャンプスーツの脚は脚の軸に沿ってカットしなければならない。

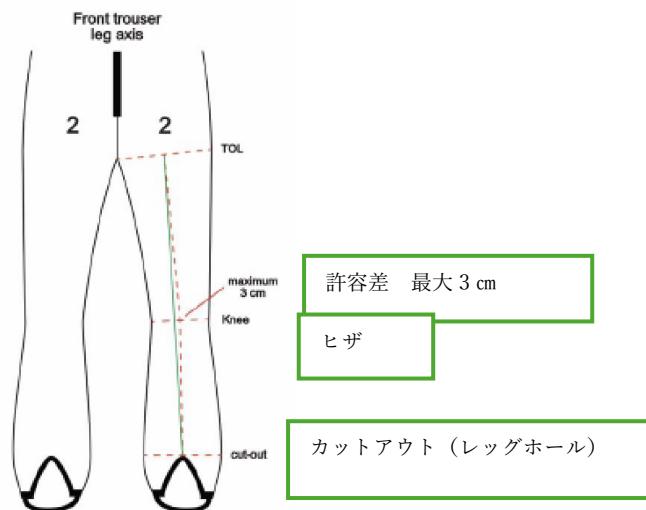
サイドシームはボディの側面に沿って縫われていなければならない。

スーツのすべてのパートはルール(SCE 4.3)に適合した生地で作られていなければならない。

ジッパー、裾テープ、取り付け用のストラップはジャンプスーツの個別のパートとはみなされない。



フロント（前）ズボン
脚軸



4.2.1.1 セットイン スリーブ(袖)

スリーブシームは袖口(スリーブヘム)で始まり、身体の尺骨(ulna)の端より下に位置してはならない。スリーブシームの端は袖ぐり(アームホール)を交差し、スリーブシームの最も高い位置になければならない(図 1 参照)。

同時に、スリーブシームの端はアームホールと袖山の最下部となる(図 2 参照)。スリーブシームは、脇下で前身頃の脇縫い(サイドシーム)と接する。アームホールシーム／肩口(ショルダーキャップ)は肩の上を通らなければならない(図 3 参照)。袖をボディや手袋に固定することは許可されない。

図 1

Illustration 1

図 2

Illustration 2

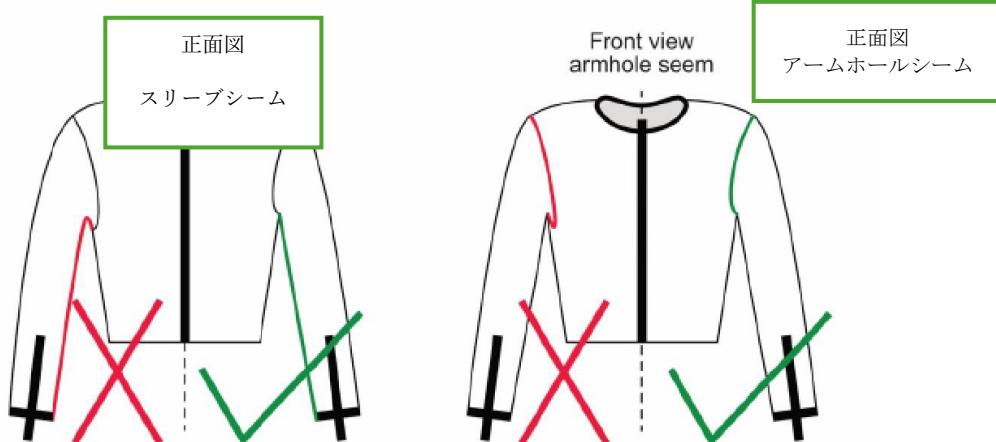


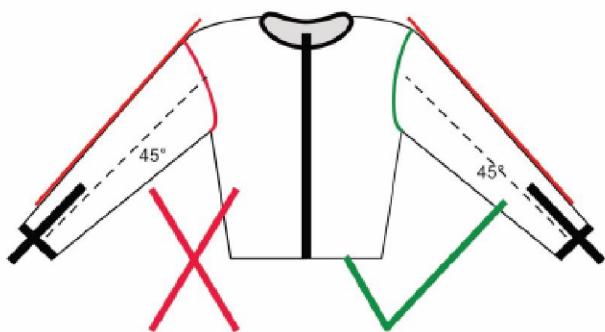
Illustration 3

図3

正面図

ショルダーポイント

Front view
shoulderpoint



4.2.2 スーツのパーティ女子用

女子用ジャンプスーツは 13 個のパーティで構成される。

- フロント中央パーティ 2 つ(6)
- フロント外側パーティ 2 つ(7)
- バックパーティ 1 つ(3)
- 前袖 2 つ(8)
- 後袖 2 つ(9)
- フロントズボン 2 つ(2)
- バックズボン 2 つ(4)

フロント中央パーティ(6)とフロント外側パーティ(7)をプリンセスシームで縫い合わせる。これらのピース(6, 7)を脇縫い(サイドシーム)でバックパーティ(3)と縫い合わせて上半身を形成する。

前袖(8)と後袖(9)は、アウタースリーブシームとインナースリーブシームで縫い合わされる。

上半身と袖はラグランシームで縫い合わされる。

2 つフロントズボン(2)は、クロッチシームで中央で縫い合わされる。

2つのバックズボン(4)は、シートシームで中央で縫い合わされる。

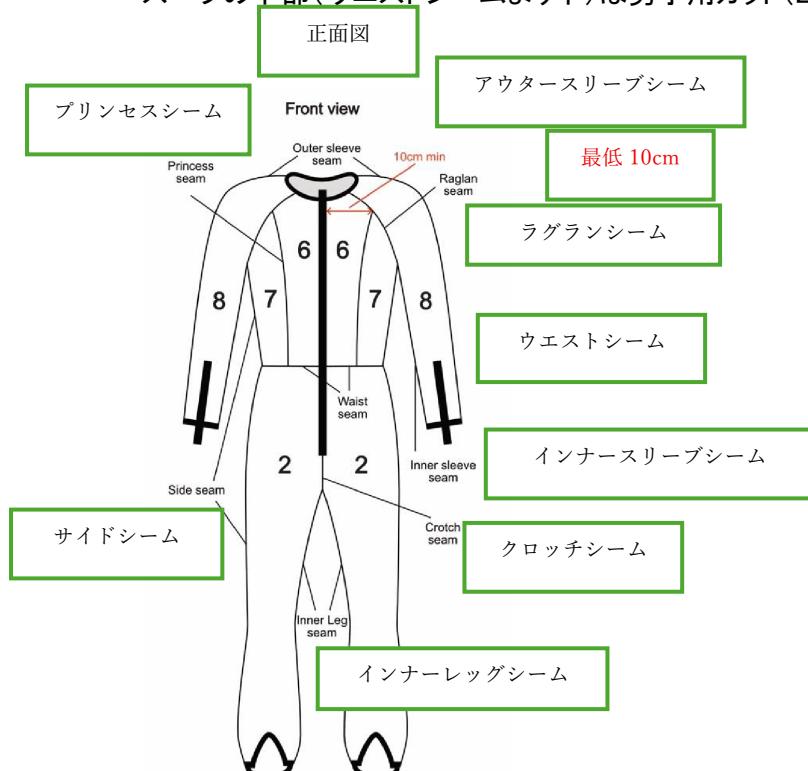
フロントズボン(2)とバックズボン(4)は、各脚のサイドシームとインナーレッグシームで縫い合わされる。

フロント上半身(6, 7)(ジッパーのある左右)は、以下の例外を除き、ウエストシームから胸囲の最高点までのバックパーティ(3)と等しくなければならない。

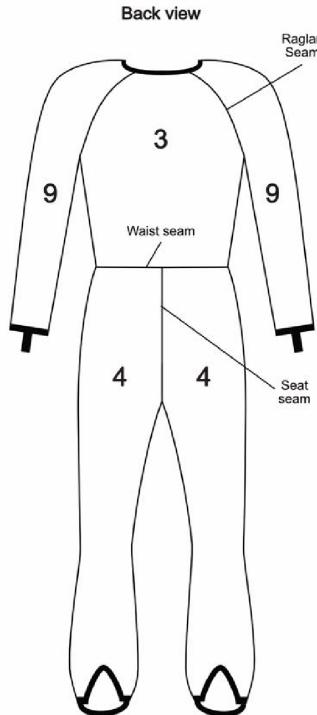
胸の一番高い部分での許容範囲は 50mm、ウエストシームまで 0mm に減少する。

フロントパーティのみ大きくすることができる。

スーツの下部(ウエストシームより下)は男子用カット(2 と 7)と同一である。



背面図

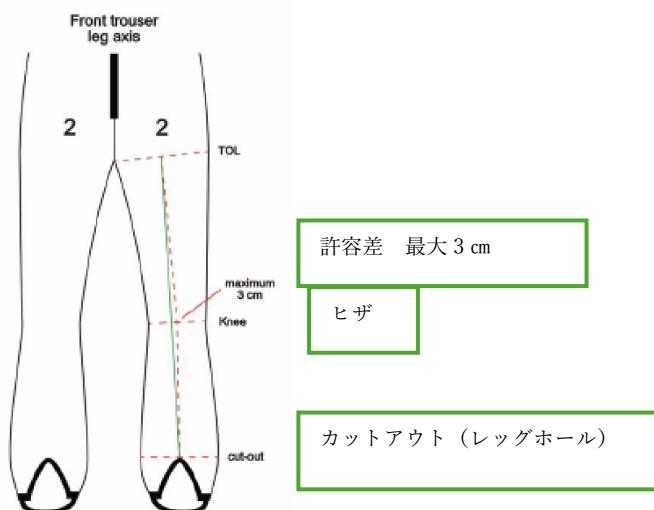


ラグランシーム

ウエストシーム

シートシーム

フロント（前）ズボン
脚軸



許容差 最大3cm

ヒザ

カットアウト (レッグホール)

4.2.2.1 プリンセスシーム

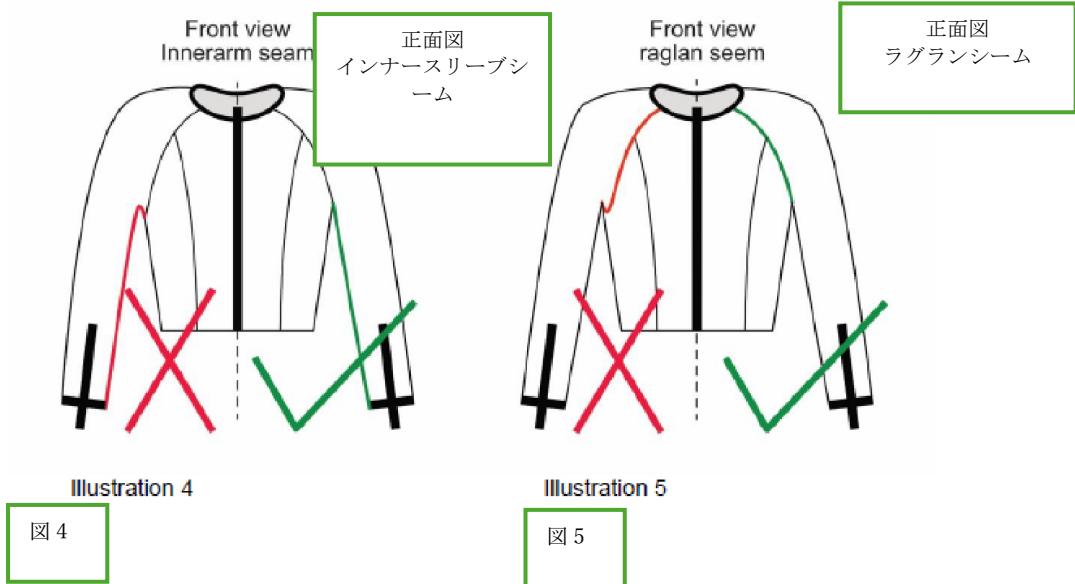
フロントパーツ(1)の上部の幅は 10cm 以上とし、プリンセスシームは胸の最も高い位置を通らなければならない。

4.2.2.2 ラグランスリーブ

肩を含め、袖はそれぞれ 2 つのパーツ(8、9)で構成される。袖は脇下から下まで同じ長さでなければならない。後部の縫い目は、袖の長さに沿って中央に配置され、胴体の縫い目と平行でなければならない。

スリーブシームはスリーブヘム(袖口)から始まり、身体の尺骨の端より下に位置してはならない。スリーブシームの端(図 4)はラグランシームと交差し、スリーブシームの最高点に位置しなければならない。

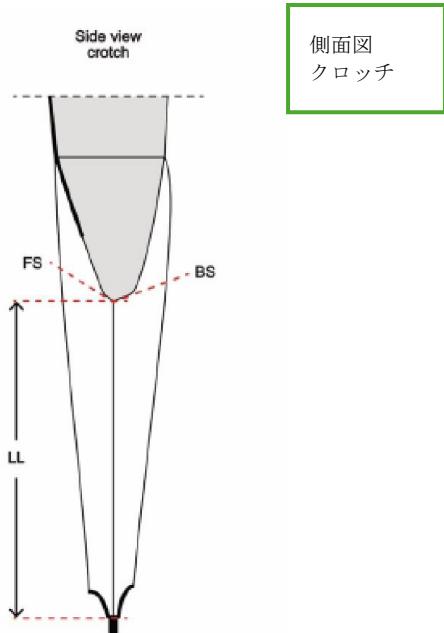
同時に、スリーブシームの端はラグランシームの最下点となる(図 5)。インナースリーブシームは、脇下で前身頃のサイドシームと接する。ラグランシームは襟と繋がっている。袖を胴体や手袋に固定することは許可されない。



4.2.3 クロッチ(股)

股の交差点は、インナーレッグシーム、クロッチシーム、シートシームが交わる点である。

- このポイントは常に股の最も低い部分でなければならない。
- スーツを裏返しにした状態で、クロッチシームとシートシームは、股の交差点からテンプレートの角度(FS-BS)より上を通らなければならない。両方のシームには、それぞれ 1 つの曲線のみを含めることができる。
- ジッパーからのクロッチシームと、ズボンの後ろのウエストシームまでのシートシームは、メインのシームまたはガイディングシームとして、一列に縫い付けられなければならない。インナーレッグシームは、このメインシームに繋がれていなければならない。



4.2.4 ウエストシーム

- ウエストシームは体の周りを水平に通り、腰骨の高さに配置しなければならず、上下の許容範囲は **±5 cm**。(女子の新ルール)
- フロントとバックのセンターの差は **5cm** を超えてはならない。
- フロントパートのウエストシームはまっすぐでなければならない。

4.2.5 シーム/ステッチ

- シームは、スーツのパート、ジッパー、裾テープ、ストラップを接合する場合のみ許可される。
- クロッチシーム、シートシーム、および脚(ブーツ)の最後の **15 cm** は二重に縫うことができる、ただし、互いに重ねて縫うことができるが、隣り合わせて縫うことはできない。
- シームはスーツの内側に位置してなければならない。
- 生地の端を縫うことは許可されない。
- 縫いしろ(素材の縫い目(シーム)の後ろから端まで)は **1cm** を超えてはならず、つなげてはならない。
- スーツの内側または外側への追加のシームやシームの修正、コード、ロッド、プリーツ、バンドなどの取り付けは許可されない。

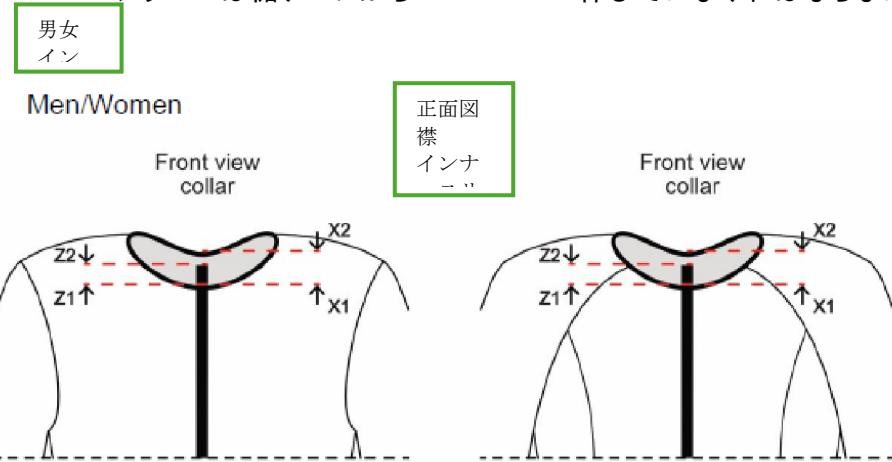
4.2.6 裾/カットアウト

- 脚の裾、腕の裾、襟の縁は連続したゴムバンドで縫取られていなければならず、同じ物理的素材の特性を持っていること。
- 各裾の幅は **1.5 cm** を超えてはならない。
- 裾テープにより生地にしわや折り目が付かないようにしなければならない。

4.2.6.1 襟/ネックライン

- 襟は丸い形で、体にぴったりフィットしなければならない。
- 襟の前面と背面の高さの差は **5cm** を超えてはならず、フロントパートは常に低くなる。 $(X_1 - X_2)$

- ジッパーは裾テープから 1.5cm~5cm 伸びていなければならぬ。(Z1 - Z2)

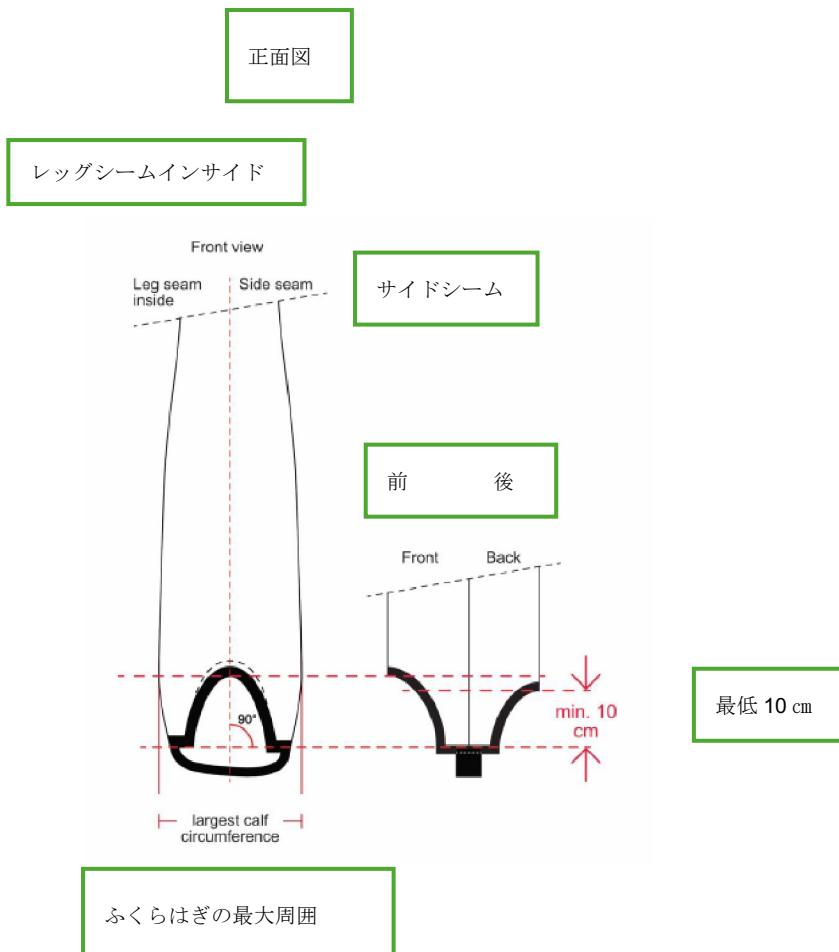


4.2.6.2 スリーブヘム(袖の裾)

- 腕の裾は腕の軸に対して 90 度の角度でなければならず、尺骨を超えてはならない

4.2.6.3 レッグヘム(脚の裾)

- 脚の裾には、前と後ろに靴用の切り抜きがなければならない。
- **リアシューの切り抜き(カットアウト)の高さは最低 10 cm なければならない。**
- フロントシューの切り抜きは、ブーツストラップまたはバックルの後ろに位置しなければならない。
- スーツをブーツ(スーツの内側)に固定するには、インナーレッグシームの裾からアウターサイドシームまで、ストラップを 1 本縫い付けなければならない。
- ストラップが取り付けられている脚の裾は、脚の軸に対して 90 度の角度で配置する必要があり、**外側が常に内側よりも長くなる**。
- ストラップの幅は 2cm~4cm、厚さは最大 2mm なければならない。
- ストラップは 1 つの連続したピースで作られている必要があり、複数の材料を結合するためのクリップ、バックル、またはその他の留め具を含んではならない。
- スーツの脚はストラップでのみブーツに固定されなければならない。
- 裾の長さはスキージャンプブーツの靴底を超えてはならない。
- **ふくらはぎの周囲は、前脚のカットアウトの高さで最大でなければならない。**



4.2.7 ジッパー

- ジッパーは裾テープから 1.5 cm~5 cm 伸びていなければならない。
- ジッパーの外側の最大幅は 1.5 cm。
- ジャンプ中はジッパーをすべて閉じたままにしなければならない。

4.2.7.1 スリーブジッパー

- 各袖にジッパーを1つ縫い付けてよい。
- **ジッパーは肘の前で終わらなければならない。**
- 必要に応じて位置(リア、フロント、サイド)を選択できる。

4.2.7.2 メインジッパー

フロントメインジッパーは、フロントピース(1)とフロントズボン(2)の間に縫い付けられ、ウエストシームの少なくとも 5cm 下、股のクロスの前最大10cm に縫い付けられなければならない。

4.2.8 ラベル

スーツには以下のデータが記載されたラベルがなければならない。

- 選手名
- 国

ラベルは襟の近くのバックパーツになければならない。
ラベルは襟のバックパーツの裾に縫い付けることもできる。
ラベルは、印刷または防水性インクで手書きもできる。
ラベルは 16cm²を超えてはならない。

4.2.9 スポンサーロゴ

スponサーロゴは空気透過率の対象外となる。
スponサーロゴに関する規定は、用品商業用マーキング規格に定められている。

4.3 スキージャンプスーツの生地

スーツの全パーツにおいて、素材表面の構造及び素材の構成は同一でなければならない。唯一の例外は、同一素材の色違いである。

スーツの厚さは、4.0mm 以上、6.0mm 以下でなければならない。

スキージャンプスーツの構造は、5 層ラミネート生地で以下の要素で構成される：

- アウター(外側)生地／第一層
- フォーム
- 弹性膜
- フォーム
- 裏地生地

これらの構成要素は、熱溶解プロセスまたはフレーム(火炎)ラミネートのいずれかによって一緒にラミネートされる。生地をラミネートするには、4 つの工程が必要である

制限空気透過率 40 l/m²/秒(FIS ルール)は、穴を開けること(ミシン目)で達し、一定の値を保証する。

アウター生地／第一層

スキージャンパーラミネートのアウター生地は、ツーウェイ伸縮縦編生地(bi-elastic warp-knit fabric)、いわゆるシャルムーズ生地(パターン表記法)である。この素材は、2 本糸システム縦編機(2-thread system warp knitting machine)で生産される。

素材：81 % Polyamid gloss (ポリアミド光沢) dtex 44f12

19 % Elasthane (Lycra) (エラステイン(ライクラ) dtex 44f1

重量：およそ 180/190 g/m²

弾力性：縦 150–160%
横 よよそ 85–95%

表面処理(フィニッシング)：

材質は、伝統的な後染め(酸性染料)で染色する。染料及び最終的な染色助剤以外に、生地表面の特性を変える可能性のある化学物質の使用は認められない。

素材には 2 種類の側面がある：

a) 縦方向のストライプ”リップファブリック(イーブンサイド)(裂き生地(偶数面)”

b) サテンサイドと呼ばれる横糸のつながり

サテンサイドは、ジャンプスーツ外側の見える部分である。サテンサイドは、チップ加工されていなければならない。それ以外の化学的または機械的処理による表面加工は認められない(例:アルミニウムスチーム、フォイル加工、成形等)。

裏地

裏地はアウタ一生地と同一(素材と重量)のものとするが、色は白のみとする。

内側生地／フォームと弹性膜

内側の素材は、2.1mm のフォーム 2 層(容積重量約 55g)と、その間に弹性膜をはさんだ 3 層ラミネートである。このラミネートには規定の空気透過率(通気性)を達成するために穴が開けられている。

スーツ素材の空気透過率(通気性)

ジャンプスーツの素材は、外側からも内側からも、同一の最小限の空気透過率を示さなければならない。最小空気透過率を次の通り定める:

生地を伸ばさない状態で、10mm の水圧下において、少なくとも 40 リットル/m²/秒の中程度の空気透過率を示さなければならない。

競技会でのコントロールにおいて、この値は 40 リットル以上でなければならない。
コントロール中さまざまなパート間の最大差は 12 リットルを超えてはならない。

4.3.1 素材の検査

FIS コントロール手順／用品ワーキンググループが連邦物質管理研究所(FIS)と共に策定した最低通気性に関するガイドラインは有効。したがって、スキージャンプスーツには、専門的な規格および通気性要件を満たし、スーツのすべての部分が同一の素材で作られている限り、多層素材の使用が認められる。

4.4. 許容範囲、測定

4.4.1 身体 - スーツの周囲の長さ

スキージャンプ男子とノルディックコンバインド男子 :

スーツは、どの部分においても選手の身体の周囲より 2.0 cm ~ 4.0 cm 大きくなければならない。

スキージャンプ女子とノルディックコンバインド女子 :

スーツは、どの部分においても脇の下から膝までの選手の身体の周囲より 2.0 cm ~ 5.0 cm 大きくなければならない。

スーツの袖は、どの部分においても選手の身体の周囲より 2.0 cm ~ 4.0 cm 大きくなければならない。

計測器具:

テーラー用メジャー

ボディ、脚、腕の周囲は、軸に対して 90 度で測定される。

スーツは、折り目を付けずに平らに伸ばした状態で外側の表面で測定される。

スーツは指定されたポイントでマークを付け、計測する。その後、選手の身体の対応するポイントでマークを付け、計測する。

選手の身体の任意の箇所を測定し、スーツの対応する箇所と比較することができる。スーツと身体の測定位置を決定する基準点は、胴体の場合はウエストシーム、脚の場合には腰骨の位置(ヒップボーン)となる。

ボディ測定はすべて個人の下着を着用した状態で行う。

スーツ着用時は、腕を伸ばし、肘が身体から 30cm 離れるように測定する。脚はまっすぐ伸ばし、足の間隔は 30cm。選手は直立姿勢で立っていなければならない。

4.4.1.1 腋下・肩部測定

腋下・肩部周囲径は、選手がスーツを着用した状態で測定する。両腕は体に対して 45° の角度で伸ばす。また、選手がスーツを着用していない状態でも測定する。この場合は、両腕を体に対して 45° の角度で伸ばした状態で腋下・肩部周囲径を測定する。

4.4.1.2 膝下丈

ブーツやジエットパンツを着用する場合、スーツは膝から足首まで、選手のボディサイズ(体型)より 2cm~10cm 大きくなければならない。膝から脚の下の裾にかけて移行する。

4.4.1.3 脚の上部の測定 (TOL)

スーツは、大腿部の最も高い周囲(大腿部の軸に対して 90 度の角度)で測定される。

選手のボディーは、大腿部の最大周囲(大腿軸に対して 90 度の角度)で測定される。

4.4.2 ウエストシーム

前身頃(フロントパーツ)のウエストシームは直線で、上下±1cm の許容範囲。(スーツをテーブルに置いた状態)

ウエストシームの中心の前後差は、最大 5cm の許容範囲。(スーツをテーブルに置いた状態)

測定器具:

金属製のメジャー

4.4.3 肩上のアームホールシーム

アームホールシームはデジタル水準器に触れてはならない。

測定器具:

45° 測定可能なデジタル水準器

選手は両腕を 45° に伸ばした状態で直立しなければならない。

水準器は前腕と上腕の外側に沿って設置しなければならない。

4.4.4 脚の軸

脚軸の許容範囲は、膝の高さで±3cm。

測定

器具:

金属製のメジャー

スーツの大腿、膝、靴の切り抜き部分の上部に軸の中心点をマークする。

大腿部のマーカーから靴の縁まで直線を引き、膝における偏差は3cmを超えてはならない。

4.4.5 袖丈(SL)

腕の長さより5cm以上短くないこと

計測器具:

金属製メジャー

袖口から脇下のシームの交点まで直線で計測する。この測定では、スーツを袖口から吊り下げる。

グローブ着用なしの選手のスーツの測定:

腕は体の横から20~30cm伸ばす。

袖は、しわや折り目がなく、尺骨を越えて伸びてはいけない。

4.4.6 脚丈(LL)

男性:

最小測定値は、選手の股下の長さより少なくとも1cm長くなければならない。

女性:

最小測定値は、選手の股下の長さより2cm以上短くないこと。

測定器具:

金属製のメジャー

内股の長さ(LL)は、スーツの股下(SX)のシームの交点から、裾のストラップが縫い付けられている最下部のシームまで直線で測定する。

この測定は、スーツを脚から吊り下げて行う。

4.4.7 股下測定

男子:

股下の高さ+3.0cm以上

女子:

股下の高さ-2.0cm 以上

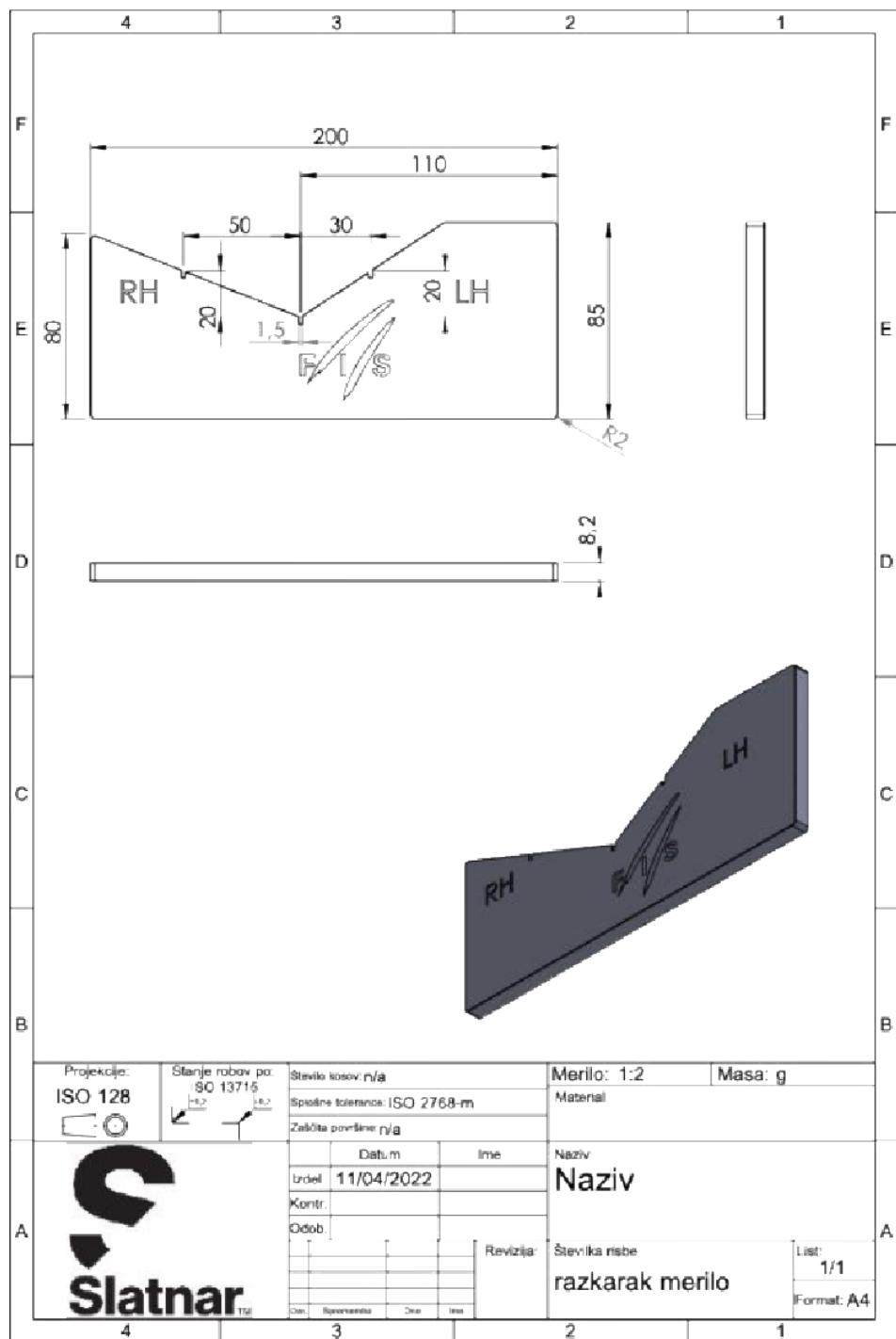
測定器具：

股下測定器具(ストトナー)

地面から股下までの高さを垂直に測定。選手はジャンプスーツ、ジャンプブーツ、ウェッジを着用しなければならない。測定中は、両足は 30cm 離し、脚を完全に伸ばした状態でなければならない。ブーツの後部は股下測定器具の金属部分に接触しなければならない。股下測定器具のホイールに平らな中底を乗せた状態でのみ立つことができる。股下測定は、ジャンプの前後どちらでも行うことができる。

4.4.8 股下テンプレート(FS - BS)

股下テンプレートは、インナーレッグシーム(内股の縫い目)に対して 90° の角度で配置し、テンプレートの角度の最も深い点は股の交点になければならない。シームはテンプレートより上を通っていなければならない。



4.4.9 スキージャンプ用生地の空気透過率(通気性)

スキージャンプ用生地の最低通気性は $40 \text{ L/m}^2/\text{秒}$ 。

スーツのすべてのパーツの通気性の差は $20\text{L}/\text{m}^2/\text{秒}$ を超えてはならない。

通気性は、ジャンプ中の空気の流れの方向に沿って生地部分で測定する。

男子:

フロントパーツ - 外側から内側へ

バックパーツ - 内側から外側へ

袖 - 外側から内側へ

女子:

フロントパーツ - 外側から内側へ

バックパーツ - 内側から外側へ

測定装置:

Steinel ポロシメーター V01、V03、V03

4.4.9.1 一次結果が陰性の場合の手順

1回の測定値が $40 \text{ リットル}/\text{m}^2/\text{秒}$ 未満の場合、以下の手順が実行される。

- 競技用スーツの該当箇所において、無作為に選択された2箇所で再試験が行われる。
- 3回の測定のうち少なくとも2回が $40 \text{ リットル}/\text{m}^2/\text{秒}$ を下回る場合、失格(DSQ/NPS)が発行される。

4.5 スーツのマーキング

冬季オリンピック(OWG)、FIS 世界スキー選手権(WSC)、FIS スキーフライング世界選手権(SFWSC)、FIS ワールドカップ(WC)、およびグランプリシリーズ(GP)で使用されるすべてのスーツは、FIS 用品コントローラーによる検査と承認を受けていることを示すため、大会前に FIS 指定のシステムでマーキングを行わなければならない。

- 技術(テクニカル)承認に合格したスーツのみが FIS 用品コントローラーによるマーキングを受ける。
- スーツには、固有のエンコードされた NFC チップが **5 個(男子)または 3 個(女子)** 搭載され、スーツの内側の所定の位置に熱プレス機で貼り付けられる。
- マーキングされたスーツのデータ(選手名とスーツ番号)は、FIS 指定のデータベースに登録され、記録される。
- マーキングのためにスーツを提出できるのは、競技会に参加する選手のみ。
- 各選手は、シーズンごとに登録および使用できるスーツの数が限られている。
- 今シーズン初めて競技会に参加する選手は、2着目のスーツ(予備)をマーキングする。
- 夏季シーズンで使用したスーツは、冬季シーズンでも使用できる。

4.5.1 スーツ割り当て期間 2025/2026 スキージャンプ男子

Summer Grand Prix	2 Suits
Lillehammer, Falun, Ruka, Wisla, Lake Placid	2 Suits
Engelberg, Oberstdorf, Garmisch-Partenkirchen, Innsbruck, Bischofshofen, Zakopane, Sapporo	1 Suit
SF WSC Oberstdorf, Willingen	1 Suit
Olympic Games	2 Suits
Kulm, Lahti, Oslo, Vikersund, Planica	1 Suit

4.5.2 スーツ割り当て期間 2025/2026 スキージャンプ女子

Summer Grand Prix	2 Suits
Lillehammer, Falun, Ruka, Wisla, Lake Placid	2 Suits
Engelberg, Garmisch-Partenkirchen, Oberstdorf, Villach, Ljubno,	1 Suit
Zhangjiakou, Zao, Sapporo, Willingen	1 Suit
Olympic Games	2 Suits
Hinzenbach, Lahti, Oslo, Vikersund, Planica	1 Suit

4.5.3 スーツ割り当て期間 2025/2026 ノルディックコンバインド男子

Summer Grand Prix	1 Suit
WC Ruka / COC Ruka	1 Suit
WC Oberhof / COC Eisenerz	1 Suit
Olympic Games (only one will be chipped)	2(1) Suits
WC Kulm Lahti (only athletes are not in OWG) / JWSC Trondheim	1 Suit

4.5.4 スーツ割り当て期間 2025/2026 ノルディックコンバインド女子

Summer Grand Prix	1 Suit
WC Trondheim / Lillehammer	1 Suit
WC Seefeld / COC Schonach	1 Suit
WC Lahti / JWSC Trondheim	1 Suit

4.5.5 スキージャンプスーツの使用

- ワールドカップおよびグランプリシリーズでは、競技日ごとに 1 着、大会(イベント)ごとに 2 着の使用が認められる。
- OWG、WSC、SFWSC は、競技日ごとに 1 着ずつ、合計 2 着の使用が認められる。
- 公式ジャンプ(公式トレーニング、試技、予選、試合)中にスーツが破損した場合、用品コントローラー(EC)の検査および承認を受けた後、選手は破損部分を交換することができる。その場合、FIS 用品コントローラーに遅滞なく報告し、FIS チップデータベースに記録しなければならない。この手順については、全チームに通知される。
- FIS 用品コントローラーは、特定の状況(降雨、降雪など)において、競技日中に 2 着目のスーツの使用を許可する権利を有する。
- スーツのマーキング検査は、ジャンプ前および／またはジャンプ後に実施することができる。
- マークされたスーツが、マーク後に不正操作(腕や股下の長さ、スーツのカットなど)された場合、FIS 用品コントローラーはチップを無効化し、当該スーツの使用や交換はできなくなる。不正操作は選手の失格につながり、意図的な不正操作は FIS の管轄機関に審査のために提出され、更なる措置やペナルティが科される可能性がある。
- 暫定的な資格停止処分の提案がなされる可能性があり、当該ケースは「FIS 競技不正操作防止規則」に基づき、更なる調査が行われ、制裁が科される可能性がある。

4.5.6 ノルディックコンバインド用スーツの使用

- OWG ごとに 1 着、WSC に 1 着の使用が許可される。
- NC ワールドカップ、サマーグランプリ、COC イベントごとに 1 着の使用が許可される。

4.5.7 その他のシリーズ

- COC、I-COC、JWSC で使用するすべてのスーツには手作業でマーキングされる。各選手は競技会につき 1 着の使用が許可される。
- 公式ジャンプ競技(公式トレーニング、試技、予選、試合)中にスーツが破損した場合は、遅延なく FIS 用品コントローラーに報告しなければならない。この場合、FIS 用品コントローラーは 2 本目の競技ラウンドで別のスーツの使用を許可することができる。
- FIS 用品コントローラーは、特定の状況(降雨、降雪など)において、競技当日に 2 着目のスーツの使用を許可する権利を有する。

4.6 テクニカル(技術)承認

冬季オリンピック競技大会(OWG)、FIS 世界スキー選手権(WSC)、FIS スキーフライング世界選手権(SFWSC)、FIS ワールドカップ(WC)、およびグランプリシリーズ(GP)で使用されるすべてのスーツは、テクニカル(技術)承認を受けなければならない。

スーツのマーキングに関するテクニカル承認が得られた後、スーツは FIS 用品コントローラーが保管する。選手は常に FIS 用品コントローラーの指示に従わなければならない。

FIS 用品コントローラーは、すべての S.C.E.規則を確認する権限を有する。

選手 1 人あたり、イベント/週末 1 回につき 1 着のスーツが技術承認の対象となる。

スキージャンプの例外 :

参加する各選手は、オリンピック冬季競技大会 (OWG) で技術承認のために最大 2 着のスーツを提出できる。

技術承認が不合格となった場合、各チームは追加で 1 着のみ技術承認を受けることができる (チームあたり 1 着)。

このため、ナショナルグループは別チームとみなされる。

以下の測定を実施しなければならない。

4.6.1 選手着用なしのスーツ:

袖丈 (SL)

インナーレッグ(内股)丈 (LL)

股下テンプレート (FS-BS)

肩

脚裾

4.6.2 選手着用のスーツ :

- 股下コントロール
- 肩（男性）
- 脚の上部（TOL）

（スーツのサイズ、裁断などに）不備がある場合は、用品コントローラーが測定を行いう必要がある。

4.7 用品コントロール（検査）／スーツ

用品コントロールは、競技用品を無作為に検査する。

用品コントロールは、ジャンプの前または後に実施できる。

選手は、いかなる場合も FIS 用品コントローラーの指示に従わなければならぬ。

検査中に検査官の指示に選手が従わなかった場合、これは「用品検査拒否」（ICR 441）とみなされる。

選手はコントロール前、または、コントロール前のジャンプ後にいかなる用具も操作することは許可されない。

違反行為を処罰するためにビデオのモニタリングが使用される場合がある。

4.7.1 スタートコントロール

- スーツのマーキングコントロール
- 股下コントロール
- アームヘム（袖裾）
- レッグヘム（脚裾）
- カラー（襟）
- 不備があった場合（用品コントロール室での報告および追加計測）

股下コントロールはバーチャルラインから始まる。選手は指定されたバーチャルラインの前に股下コントロールの準備をしなければならない。スーツのストレッチや操作は許可されない。選手は自然でリラックスした姿勢でコントロールボックスまで歩かなければならない。スーツはスーツ／体のどの部分でも固定してはならない。コントロールを受ける際は、スーツがルールに適合していなければならない。

股下を測定する際、襟は選手の胴体と完全に接触していなければならない。

選手は FIS 用品コントローラーの指示に従わなければなりません。指示に従わない場合は、コントロールを拒否される場合がある。

選手は、コントロール後のジャンプ前、およびコントロール前のジャンプ後に、いかなる用品も操作してはいけない。

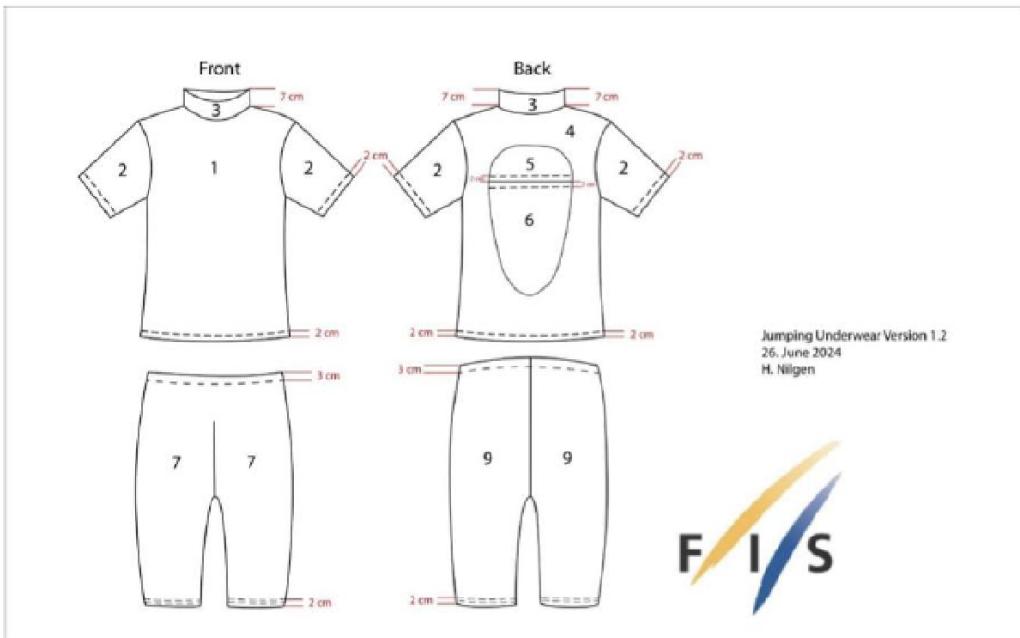
5 スキージャンプアンダーウェア

5.1 制限

- スキージャンプ用アンダーウェアは、ポリエステルとポリウレタンの組み合わせのエラスタンタイプ（＊訳注 伸縮性がある）の生地（ライクラ、スパンデックスなど）で作られていなければならない。
- アンダーウェアは二つのパーツ（シャツとパンツ）で構成される。
- 袖はヒジ上で終わってなければならない。パンツの裾はヒザ上で終わってなければならない

ならない。スタッキング/ソックスとパンツのオーバーラッピング(重ね着)は認められない。

- スキージャンプ用アンダーウェアの全ての部分は同じ素材で作られ、外側から内側、内側から外側に向かって同じ通気性(空気透過率)を示さなければならない。
 - 外側のタックとダーツ、折り目、パッドは許可されない。
- アンダーウェアのすべてのパーツの厚さは同じで、1.5 mm を超えてはならない。アンダーウェアの縫い目、すべての層とパーツを合わせた合計の厚さは 3 mm を超えてはならない。
- すべての裾は単一のピースで縫製され、ピース全体が同じ物理的材料の特性を持っていなければならない。
- シーム(縫い目)は、アンダーウェアの部分を結合するためにのみ存在できる。
- すべてのシームは真っ直ぐであるか、または、体の形に合う形状でなければならない。
- アンダーウェアの内側または外側にシームを追加したり、シームを変形させたり、ひも、棒、折り目、テープなどを付けたりすることは許可されない。
- アンダーウェアの両ピースの全体に布地を 1 層だけ使用することが許可される。
- 布地は表面が均一で、目立った突起、塊、へこみがないようにしなければならない。
 - アンダーウェアの空気透過率は、60 l/m² を超えなければならない。
- アンダーウェアのサイズ、フィット、形状は、ボディサイズと体形と同じでなければならぬ。
 - **アンダーウェアのデザインは、ジャンプ性能や身体測定時に機能上の利点をもたらすものであってはならない。**
- Tシャツにジッパー、ボタン、ベルクロ(マジックテープ)または類似品を付けることは許可しない。
- アンダーウェアをスーツやボディのいかなる部分に取り付けや固定することは認めない(ストラップ、フック、テープ、その他固定補助材等)。
- 固定するもの(例:一体化した指穴)は認められない。
- 如何なる種類のシリコン裏地・テープも許可されない。
- ショーツのシームのウエスト周りに最大 3cm 幅のゴムバンドを巻くことは許可される。
- フードの形状は認められない。
- アンダーウェアの両パーツのカットは、以下の図面に従わなければならない(ただし、パーツ 3,5,6 はオプション)。
- 選手がバックプロテクターを使用していない場合、ポケット付きの Tシャツを使用することはできない。



5.2 バックプロテクター

バックプロテクター1個をTシャツの後ろの下着の中に配置できる。

5.2.1 バックプロテクターのサイズ

S	身長 120–140 cm
M	135–155 cm
ML	150–170 cm
L	165–185 cm
XL	180–205 cm

Upper



Lower

6 標準ボディ測定ポイント

6.1 定義および一般規則

競技会に参加するには、選手は以下のボディ計測値を提供する必要がある。

- 身長
- 股下長
- 腕の長さ
- 足のサイズ

一度スキャンされた選手は、手作業による再計測は認められない。

20歳までのジュニア選手は、毎年再計測される。

ただし、(身長、体長の)いずれか大きい方の値のみが考慮される。

測定値は、即時有効となる JWSC を除き、次回の大会から有効。

測定の際は、必ずすべての測定を計測しなければならない。

選手は常に FIS 用品コントローラーの指示に従わなければならない。

FIS 用品コントローラーの指示に従わない場合は、罰則が科せられる。

カレンダー年内での二重の計測は認められない。

ただし、不規則性があった場合、FIS 用品コントローラーは再測定を要求する権利を有する。

6.2 3D ボディスキャン

3D ボディスキャンは、Scaneca 社スキャナーを用いて実施され、以下の計測値を得る。

- 身長
- 股下長

6.2.1 3D ボディスキャンの手順

- スキャンは、測定コントローラー、医師／医療従事者(認証スタッフ)、および担当コーチまたは保護者(任意)の立ち会いのもとで実施されなければならない。
- **スキャン前に、選手は本人確認を行い、同意書に署名しなければならない。**
- 選手は、(FIS が用意した)標準スリップを着用しなければならない。
- **長い髪は、耳が見えるように束ねなければならない。**
- 医師／医療従事者(認証スタッフ)が、選手の股間周辺および頭部に異常がないか確認する。
- 計測を有利に進めるために選手の身体を操作する行為は、いかなる試みも含め、固く禁じられる。
- 選手は、FIS 用品コントローラーおよび医師／医療従事者(認証スタッフ)の指示に常に従わなければならない。

姿勢に関する要件

- 両足は 30cm 離す。
- 直立姿勢 - 体軸(頭、肩、腰、膝、足首)は一直線上になければならない。
- 両足は伸ばしたままでなければならない。
- 両腕は完全に伸ばし、指定された支柱を握らなければならない。

6.2.2 股下長

股下長とは、地面から選手の股間周辺までの長さ。

膝の角度は 172 度(ソフトウェアでは 8 度)を超えてはならない。

6.2.3 身長

身長とは、地面から頭部の最高点までの長さ。

身長は、身体の様々な基準点を通る計算線を用いて算出される。

6.3 腕長(AL)

直立姿勢で、両腕を胴体から水平に伸ばした状態で測定する。前側では、胸筋と胸郭の間の点(図 1 参照)から尺骨(前腕の先端にある印の位置、尺骨茎状突起)までの長さを測定する(図 2 参照)。両腕の長さを測定し、短い方の測定値を記録する。

Picture #1



図 1

Picture #2

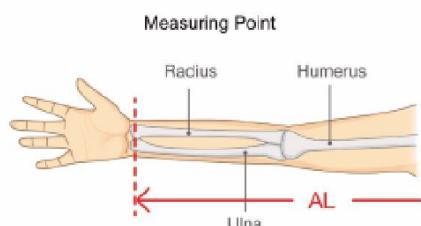


図 2

6.4 足のサイズ

足のサイズは FIS 足長測定器を用いて測定する。選手は裸足で足長測定器に立ち、足を伸ばすことができる。

両足を測定し、大きい方の数値が有効となる。

測定精度は 0.5cm。

6.5 身長と股下長の手動測定

OWG、WSC、SFWSC、ワールドカップ、GP、JWSC では、手動測定は適用されない。
選手の身長と股下長はレーザー機器を用いて測定される。

6.5.1 身長:

- 壁に向かってまっすぐ立った状態
- 頭、肩甲骨、臀部、ふくらはぎ、かかとが壁に接している状態

- 両足を 30cm 離した状態

6.5.2 座高:

- テーブルに座り、
膝を 90 度に曲げ、テーブルの端に垂らした状態
- 測定値の四捨五入 - 数学的ルールが適用される。例: 170.4cm までは 170cm まで、170.5cm 以上 171cm まで
- 股下は、正味値を使用する。171.4cm から 89.7cm を引いた値 81.7cm を四捨五入して 82cm とする。

7. クラッシュヘルメット

全てのイベントにおいてクラッシュヘルメットの着用を義務付ける。ヘルメットの形は、頭の形に合っていないくてはいけない。ヘルメットの外側の表面と頭との間の間隔は、どの位置で測った場合でも 7cm 以下とする。

FIS レースディレクター/コーディネーターの承認がない限り、カメラや固定装置等、ヘルメット表面にいかなるものも取り付けてはならない。

国際 FIS 競技会で使用されるクラッシュヘルメットは、アルペンスキー競技会用のクラッシュヘルメット(スキージャンプで使用されるクラッシュヘルメット)に適用する基準に準ずる。

基準の順守は、ヘルメットの後部に目に見える位置に取り外し不可能な方法で貼り付けられた、対応する特定の標準化された適合ラベルによって証明される。特にラベルはゴーグルストラップで覆われないようにする。国際 FIS 競技会で使用されるヘルメットに適用する基準への適合を確認する適合ラベル(ラベル“RH2013”)は、添付資料に示す。メーカーが貼るラベルは、添付(37 ページ)に記載される規格に従うものとする。

8. スキーゴーグル

スキーゴーグルは、光学的に正しいレンズによって天候や光線から目を保護する装置である。その目的は、あらゆる気象条件下でコントラストのない良好な視認性を保証することである。スキーゴーグルの使用は義務である。

9. スキーグローブ

グローブは、天候や外力に対する保護カバーとして機能する。グローブの着用は全てのイベントにおいて義務である。

グローブのサイズは、手のサイズに一致していなければならない。すべての層を合わせた素材の厚さは、7mm を超えてはならない。

グローブは、尺骨の端から肩に向かって 7cm で終わる。

ミトンは認められない。指付きグローブ(全指用)のみの使用が認められる。

グローブはフィンの形でない場合がある。

いずれにせよグローブの周りに袖やスーツを固定することは認められない。

グローブのシーム(縫い目)はグローブの内側になければならない。

D. ゼッケン

- ノルディック:クロスカントリー/スキージャンプ

例:添付書類参照

2. スキージャンプスタートゼッケンの FIS 規格

2.1 広告

FIS 広告規則に準じる。

2.2 数字(ナンバー)

FIS 広告規則に準じる。

2.3 割り当て(Assignment)

スタートゼッケンは男子のサイズで男子に割り当てられる。

2.4 生地、素材

Tシャツタイプのスタートゼッケンはポリエステル 100%で、水圧 10mm で 40 リットル／m²／秒の通気性を備えている。

2.5 弾力性(ストレッチ)

幅 10cm の生地で測定。

幅 24cm まで引き伸ばせる。

2.6 シーム、縫製

サイドシーム:素材は縫い合わせ、縁を縫い、ステッチをかける-かがり縫い。

襟足(ネックライン)と袖ぐり(アームホール)は縁取りして整え、ダブルステitchをかける。

ウエストバンドは幅 2cm のシーム、ダブルステitch(添付図参照)

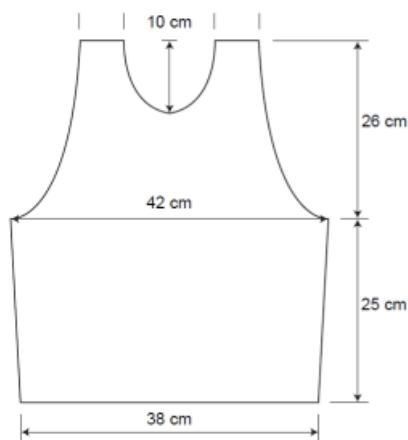
添付資料

スキージャンプ 男子

ゴムバンド無しのサイズ

Ski Jumping Men

Without elastic band

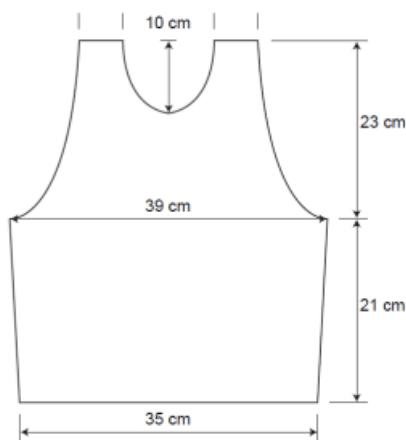


スキージャンプ 女子

ゴムバンド無しのサイズ

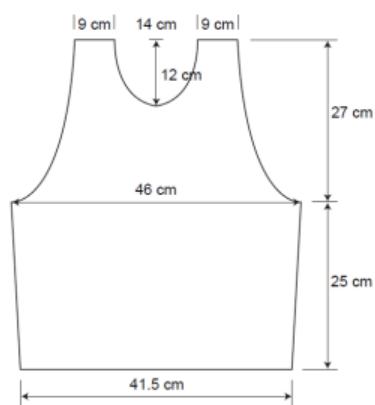
Ski Jumping Women

Without elastic band



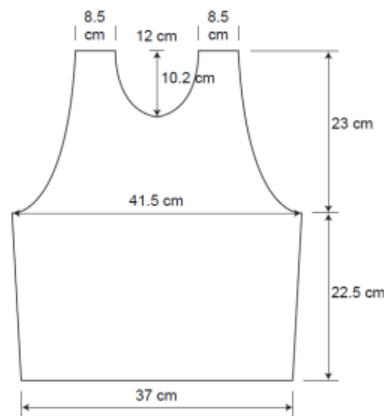
クロスカントリー 男子

Cross-Country Men



クロスカントリー 女子

Cross-Country Women



スキージャンプのビンディング取り付け用サイズ対応表

2010/2011 シーズンより

身長/スキーレンジ 145%/フロントスキーリング 57%

Measurement table for mounting of Ski Jumping Bindings

Masstabelle für Montage der Skisprungbindung			Masstabelle für Montage der Skisprungbindung		
Measuring table for mounting of jumping bindings			Measuring table for mounting of jumping bindings		
ab Saison 2010/2011 - as from Season 2010/2011			ab Saison 2010/2011 - as from Season 2010/2011		
Body Height Körpergröße	Ski length 145% Skilänge 145%	Front ski = 57% Vorderski = 57%	Body Height Körpergröße	Ski length 145% Skilänge 145%	Front ski = 57% Vorderski = 57%
cm	cm	cm	cm	cm	cm
140	203	116	155	225	128
141	204	116	156	226	129
	205	117		227	129
142	206	117	157	228	130
143	207	118	158	229	131
	208	119		230	131
144	209	119	159	231	132
145	210	120	160	232	132
	211	120	161	233	133
146	212	121		234	133
147	213	121	162	235	134
	214	122	163	236	135
148	215	123		237	135
149	216	123	164	238	136
	217	124	165	239	136
150	218	124		240	137
151	219	125	166	241	137
152	220	125	167	242	138
	221	126		243	139
153	222	127	168	244	139
154	223	127	169	245	140
	224	128			

スキージャンプのビンディング取り付け用サイズ対応表

ユースカップ

2010/2011 シーズンより

身長/スキー長 140%/フロントスキー—57%

Measurement table for mounting of Ski Jumping Bindings

Jugend Cup - Masstabelle für Skilänge und Bindungsmontage					
Youth Cup - Measuring table for Ski length and mounting of the bindings					
ab Saison 2010/2011 - as from Season 2010/2011					
Body Height Körpergrösse	Skilength = 140% Skilänge = 140%	Front ski = 57% Vorderski = 57%	Body Height Körpergrösse	Skilength = 140% Skilänge = 140%	Front ski = 57% Vorderski = 57%
cm	cm	cm	cm	cm	cm
125	175	100	156	218	124
126	176	100	157	219	125
	177	101	158	220	126
127	178	101	159	221	127
128	179	102	160	222	127
	180	103	161	223	127
129	181	103	162	224	128
130	182	104	163	225	128
131	183	104		226	129
	184	105	164	227	129
132	185	105	165	228	130
133	186	106	166	229	131
	187	107	167	230	131
134	188	107	168	231	132
135	189	108	169	232	132
136	190	108		233	133
	191	109	170	234	133
137	192	109	171	235	134
138	193	110	172	236	135
	194	111	173	237	135
139	195	111	174	238	136
140	196	112	175	239	136
141	197	112		240	137
	198	113	176	241	137
142	199	113	177	242	138
143	200	114		243	139
	201	115	178	244	139
144	202	115	179	245	140
145	203	116	180	246	140
146	204	116		247	141
	205	117	181	248	141
147	206	117	182	249	142
148	207	118		250	143
	208	119	183	251	143
149	209	119	184	252	144
150	210	120	185	253	144
151	211	120		254	145
	212	121	186	255	145
152	213	121	187	256	146
153	214	122		257	146
	215	123	188	258	147
154	216	123	189	259	148
155	217	124	190	260	148

ジャンプスキー板

1.2.1.2 条 横幅(Profile width)の詳細

L スキーの長さ

- A フロントポーションの最大幅=115mm
- b フロントポーション 57% (f) の最大幅=105mm
- c テールポーションの最大幅=115mm
- d 先端(tip)とサイドカット始点間の最大長=300mm
- e テールとサイドカット始点間の最大長=150mm
- f bのコントロールポイント

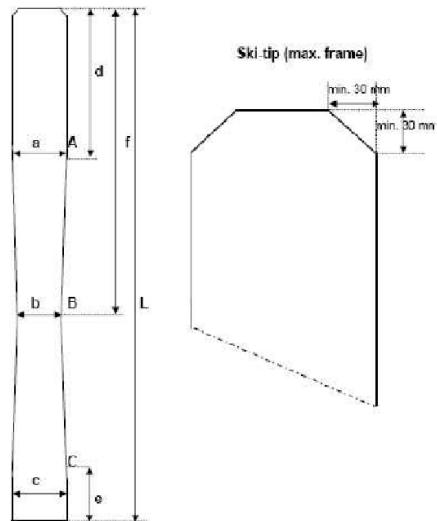
スキーの先端(最大フレーム)

↔ 最低 30mm ↓ 最低 30 mm

Jumping Skis

Article 1.2.1.2: Precision of the Profile Width

L	Ski length
a	max. width at front portion = 115 mm
b	max. width at 57% of front portion (f) = 105 mm
c	max. width at tail portion = 115 mm
d	max. length between tip and begin of sidecut = 300 mm
e	max. length between tail and begin of sidecut = 150 mm
f	control point of b



ヘルメットの FIS 規格適合証明ラベル

Label attesting conformity with FIS specifications for helmets.



Minimum Width : **10 Mm**

Minimum height : **15 Mm**

最低幅 : 10mm

最低高 : 15mm

スキー長さと体重、BMI21 の測定表 身長/体重/スキー長

(* 訳注: BMI21.000 145% 1 ランク～BMI16.000 125% 41 ランク)

卷之三

